

「プロローグ」 ~concept~

◆ 地域の高齢化（※1）・人口の減少、あわせて建物の老朽化・社会構造やニーズの変化に伴い空き家率（※2）の問題は、年々深刻化しています。

なかでも、適切な管理が行われていない空き家は、防災・衛生・景観等において、地域住民の生活環境に深刻な影響を及ぼします。

こうした中、空き家等対策事業を県・市町村等の自治体だけに頼るのではなく、地域企業、地域住民、地域学生とが連携をとりながらつくりあげるコラボレーションハウスを実現し、子供から高齢者までだれもが集える施設として、地域の活性化につなげます。

（※1）高齢化率（65歳以上）
全国 26.6%
鹿児島 29.4%（全国19位）
(平成27年10月1日現在)



「ダイアローグ」 ~image~

◆ 空き家利用の目的

- 1) 空き家の新たな活用方法の提案、発信を行う事で空き家の活用を促進する。
- 2) 広報等により県民（空き家所有者）の方々の空き家問題に関する意識を高める。
- 3) 空き家所有者は、負の資産となっている空き家を地域に喜ばれる正の財産とする。
- 4) 空き家活動を通じて地域の特性に応じたまちづくりの価値を高めることで地域活力が向上する。
- 5) 地域への貢献をアピールすることで空き家の解消につなげる。
- 6) 防災施設として災害にやさしい地域の実現に向けた取り組みを行う。

◆ 第一の目的～防災がテーマの施設～

- ・災害が発生した非常時において、住宅であらゆる災害を防ぐことが困難である時に、宿泊も可能な一次避難施設「みんなの家」（※3）とする。
- ・普段から施設を利用することで安全な経路を確認出来ており早めの避難に備えた準備ができる。

（※3）みんなの家とは、災害時、仮設住宅に住む人々のためのスペースを集めること、コミュニティが回復する場所、子供と基地のためのスペースを遊び、地域環境を再建することです。

◆ 第二の目的～地域活性化がテーマの施設～

- ・空き家利用希望（提供）者が決定すると、リニューアル内容については設計を開始する時点から団体専門家だけではなく地元の高校生や地元出身の大学生とのコラボレーションにより、ワークショップを開催し参加者が自発的に作業や発言をおこなえる環境づくりを行う。（自分の意見が実現する建築への興味）
- ・一次リニューアル工事時点でも設計時と同様、地元の施工会社と地元の高校生や地元出身の大学生とがコラボレーションし実際に形となる過程を学ぶ。
- ・イベントの内容や進行・内装等については様々なアイデアの中からスポンサーとなる企業を募集する。本来の目的は地元の企業と地元の学生をつなぐものとなり、企業宣伝等や企画に対する、アンケート等も兼ねる。施設の活用を通じて地元に就職する若者を増やすことも狙い。（整備・運営費や広告費等 企業提供でまかなう。）

「空き家利用フローチャート」 ~story~

